

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2073400539		
法人名	社会福祉法人おらが会		
事業所名	おらがの里		
所在地	長野県上水内郡信濃町大字柏原348-1		
自己評価作成日	平成21年7月30日	評価結果市町村受理日	平成22年2月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2073400539&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成21年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた広い敷地内を散歩したり、畑を利用して野菜作りや花壇の草取り等、自然とのふれあいを大切にしている。
また、利用者の高齢に伴い、個々の個性が尊重できる生活環境を整え、安心感と満足感と希望を持っていただける支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人 おらが会が運営するグループホームである。併設する特別養護老人ホーム、デイサービスがある。訪問させていただいた時、利用者が長靴をはいて畑に向かい職員が作物作りを教えていただくという言葉が印象的であった。今年から施設長、管理者が同時に変わった。職員の経験を積むために同じ場所にとどまらないという方針にての異動であるという。ホームの利用者の特性も考慮し、異動によるダメージなどの配慮も行ったという。また、地域密着型サービスの位置付けから地域交流を大切に、近隣の仲間としての野菜の差し入れなどもたくさんあり季節の食材も新鮮である。往診できる医師がいないことから、高齢化してくる利用者の重度化したときの対応が今後の課題であるという。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・申し送り時、理念唱和をして理念の共有に努めている。 ・理念に沿ったケアが出来ているか、掘り下げて確認しあうことは不十分。 	<p>社会福祉法人 おらが会の運営方針に沿い、毎月目標を作り復唱している。パンフレットには『私たちは人と人との出会い・ふれあい・きずなを大切にいたします』とも書かれ、職員の何時でも誰でも一服できる交流の場でありたいという気持ちがあふれ出ているホームである。</p>	<p>社会福祉法人の運営理念から、地域密着型サービスの意義を全員で確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を重視したグループホーム独自の理念の見直しを行い、地域へ発信し、日々理念の具体化に取り組むケアに結びつくことを望みます。</p>
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校他、地域の催し物に出かけたり、獅子舞の訪問もある。また、やしょうま作り等の季節の行事に地域の方が来てくださり、交流している。 ・買い物に出かけている。 	<p>地域の人たちが野菜を持ってきてくださったたり、ボランティアとして紙芝居に来てくださったたり、小学校の音楽会に出かけたり、小学校との交流会にも併設の特養と協力し行っている。ボランティアと作った絵手紙がたくさん飾られていた。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌で、グループホームの方たちの様子を知らせたり、認知症の人との接し方について載せたりしている。 	/	
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を定期的に行い、報告・話し合いをし、そこでの意見等を開示し、サービス向上に活かしている。 	<p>運営推進会議設置要綱が設置され、現在は3ヶ月に1回の開催となっている。おらがの里の運営のこと、地域との連携、サービスへの意見交換など話し合わせ、おらが会の新聞に載せられる。現状の課題として面会、交流などについての提供がされた。老人会の草取りボランティアに声かけをし、お茶に誘ってみるなどの提案もなされた。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者(運営推進委員)に、行事への参加のお願いをしている。 ・入居希望者の紹介を受けたり、必要に応じて意見などを聞いている。 	<p>入所検討委員会には、町の担当者が出席し検討している。市町村からも入居者についての相談があり必要に応じ、協力している。</p>	

外部評価結果(おらがの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指 定基準における禁止の対象となる具 体的な行為」を正しく理解しており、玄関 の施錠を含めて身体拘束をしないケ アに取り組んでいる	・身体拘束廃止委員会及び学習会を行い、理 解している。 ・拘束しないことを前提に介護しており、やむ をえない最小限で施錠したことがある。	身体拘束については全ての職員が理解して おり、以前帰宅願望のある利用者さんがいた ときには、玄関に鍵をか掛けたが本人の様子 やパターンを観察し、時間で鍵をするなどの工 夫をし対応した時期があった。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止 関連法について学ぶ機会を持ち、利 用者の自宅や事業所内での虐待が 見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	・虐待はない。 ・職員の代表が研修に参加し、復命書を回覧 し学ぶ機会を持っているが、関連法について より詳しく学ぶ必要はある。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支 援事業や成年後見制度について学 ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係 者と話し合い、それらを活用できるよ う支援している	・上記同様に学ぶ機会は持っているが、現在 必要性のある利用者はいない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等 の際は、利用者や家族等の不安や疑 問点を尋ね、十分な説明を行い理 解・納得を図っている	・不安や疑問点について尋ね、十分な説明を 行い、理解していただくように努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理 者や職員ならびに外部者へ表せる機 会を設け、それらを運営に反映させ ている	・夏祭り、新年会など家族の方々に参加をお 願ひし、職員と会話をする機会を作ったり、面 会時、直接意見を伺うよう努め、随時要望等 について話し合っている。	面会時になるべく家族から意見を表出し出来 る工夫をし、利用者の担当職員の名前を明記 し家族が声かけやすいように工夫している。 夏祭りや新年会に家族を招き交流できる機会 を設け随時、意見など聞けるように努めてい る。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職 員の意見や提案を聞く機会を設け、 反映させている	・月1回の職員会議で意見交換をしたり、個別 面談で意見、提案を聞く機会を設け、反映させ ている。	月1回の職員会議などで職員が意見交換し、 個別面談などもあり意見をいえる場があり運 営に反映している。さらに今年10月からは、 「ありかた委員会」が開催され、職員が意見 を出し、意見を出した職員から委員を選出し職 場改善に役立っている。	

外部評価結果(おらがの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長との面談を行った。 ・働きやすいように福利厚生を高めたり、環境の整備に努めている。 		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく多くの職員が外部研修を受講できるようにし、毎月の職員会議で研修報告を行い、研修報告書を回覧している。 ・内部研修として、講演会を行っている。 		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士会を通じ、一部の職員は交流があり、情報をサービスの向上に活かしている。 ・他グループホームとの交流研修を以前は行ったが、現在は行っていない。 		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活暦、本人の知っていること、馴染みの事柄を知り、本人の思いを受け止め、安心してもらえる働きがけをしている。 		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族等が不安や疑問に思うことに答え、安心していただけるようにしている。また、今までの家族の苦労をゆっくり聞くようにしている。 		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当のケアマネと情報交換や意見交換をし、入所検討委員会においてもサービスとしてグループホームが適切なのか等含め検討している。 		

外部評価結果(おらがの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・昔の知恵やしきたり、野菜の作り方、料理方法など教えてもらうことが多い。 ・畑の手入れ・そうじなど、共同作業をしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・毎月のおたよりで本人の思い、様子を家族に伝えたり、本人と家族の絆を大切に考えているが、面会が少なく、共に本人を支えることがうまく出来ないケースもある。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・デイサービスの事業所に散歩に行き、知人と会ったり話をする機会を作り、馴染みの人との関係が途切れないよう支援をしている。	併設するデイサービスに知り合いがいるため、デイサービスに出かけたりホームに来ていただく。また、在宅の頃から利用している馴染みの床屋に連れて行くなど継続した支援をしている。トライアスロンを好きな利用者には家族に働きかけ、楽しんでもらったこともある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・食事の席をお互いうまく関わりが持てるように工夫したり、席替えをしたりしている。 ・会話の橋渡しや共同作業を見つけている。		
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・相談があった場合には応じ、支援に努めている。 ・入院退居の方への面会を時々行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・言動だけでなく、表情、態度等からも思いを受け止めるよう努めている。 ・本人が安心し、喜ぶことを見つけるようにしている。	話しをするときはゆっくり時間をとる。家族暦を家族に書いていただき参考に。石を拾ってくる利用者がいたときに、飲み込んでしまったら危険ではないかなど意見が出たが、本人の行動を観察し石を集め、部屋にきれいに並べるのが楽しみと理解でき、今では自室に綺麗に並べられた石を眺め満足している姿が見受けられている。鎌を研いでくれる人もいる。	

外部評価結果(おらがの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時アンケートにて生活歴の記入をお願いしたり、生活歴ノートへの書き込みによる把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・1日の様子を個別記録に残している。 ・職員がそばで一緒にやってみることで出来ることを把握したり、記録に残している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・一人ひとりに担当を決め、本人の意向を確認したり、面会時に家族の意見を聞き、会議で話し合い、現状に即した介護計画になるように努めている。	毎月のモニタリングを行い、3ヶ月に1回の見直しをしている。担当制になっており、担当職員が家族と話し合いを行い、職員会議で評価、見直しを行う。必要なケア、介護記録も必要に応じ、家族に提示し意見も確認している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別記録に記入し、情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・歩行練習、ミキサーやキザミ食など、利用者の変化に伴い、今必要と思われる支援を取り入れている。 ・家族に代わって受診に同行することもある。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアさん(話し相手、絵手紙など)に来ていただいている。 ・訪問美容を利用している。		

外部評価結果(おらがの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・どの方も利用前のかかりつけ医(主治医)に継続してかかっている。 ・体調変化に応じ、協力病院と連絡をとって診てもらっている。 	かかりつけ医は今まで在宅で見て頂いた医師が継続している。基本的には家族が受診に連れて行く。緊急時は職員が受診に付き添い、家族に報告をする。状況により受診時、家族と同行する。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、介護職、看護職で情報を伝え合い、相談し合い、適切な受診が行えるよう努めている。 		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職、管理者が中心となり、病院関係者と連絡を取り合っている。面会に行き、治療の様子を聞いている。 ・積極的な関係作りはまだ不足と思える。 		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化した場合、終末期については十分な取り組みが行えていない。 ・事業所として、どこまで対応できるか、見極め対応の検討を行うことが課題である。 	この地域に往診して下さる医師がいない。今までは病状悪化し入院した利用者の退所の経験しかない。終末期の取り組みの必要性、対応が不十分であることは理解され、今後の課題としている。	往診できる医師がいない等課題も大きい。96歳という高齢な利用者も生活されている。早急にホームが出来る対応や主治医とどのような連携ができるか相談し、家族への十分な説明を行い方針の共有ができることを期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・救急法の研修等、交代で自主的に参加しているが、定期的な訓練は行えていない。 		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な防災訓練は年2回行っているが、全職員が具体的な方法を身につけているとは言えない。地域との協力体制は、法人として築いている。 	年に2回の防災訓練が行われている。併設した特養と同時開催され、地域の住民も参加、訓練計画に従い、それぞれの役割の中で行なった。終了後には反省会など行い会議での発表をし次年度に役立てるようにしている。	

外部評価結果(おらがの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ていねいな言葉がけに努めている。 ・言葉使い、声掛けの仕方に問題があれば、職員同士声掛けし、対応を検討したり、改善に努めている。	言葉使いには注意している。気になることがあるときは職員会議で話し合い改善に努めている。ケアの面でも、利用者が洗面に立ったときに、さりげなくひげそりをする様に促すなどその場の雰囲気を見ながら声かけしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・毎日の暮らしの中からさりげなく希望を聞きだすよう努めている。 ・選択できるようにしている。(余暇時間等)		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりのペースを大切に、希望に沿って一日が過ごせるよう支援している。 ・ごくまれに利用者さんの状態により(緊急受診など)都合優先となることがある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・季節に合った服や、好みの服が選べるよう働きかけている。 ・希望の髪型にカットしてもらえるように美容師さんに伝えている ・本人のこだわっているスタイル(帽子に背広)を大切にしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食べたい物を聞きながら料理を作ったり、皮むき、ゴマすり、ギョーザ作りなど出来ることを一緒に行っている。 ・職員の食事は利用者と同じテーブルで摂り、出来る方には片づけを手伝ってもらっている。	ホームの前には畑があり、自分たちが作った野菜を利用者と共に取りに出かけ食卓に上る。栄養も考え併設する特養の食事の献立を参考にし作ることもある。利用者の好みのものを確認しながら作る。ゴマを利用者同士ですったり、野菜の皮むきをしたり出来ることは行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・ミキサー食だが好きな魚はそのままの人、喉につかえそうな物のみキザミにする人、お茶類はあまり飲まないののでコーヒーや薄い味噌汁を1回多くつけて水分を補う人等、個々の状態に応じて支援している。 ・食事も個々に合わせて確認している。		

外部評価結果(おらがの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・声かけや見守り、時には介助と本人の力にに応じてケアしているが、ほぼ自力で出来る人に対して仕上げをすることはできず、しっかり行えているかの確認ができない時がある。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・必要な人には排泄チェック表を使用して確認している。 ・食後、排便を促すためのトイレ誘導を行うなど、一人ひとりに必要な支援をしている。	利用者の動きや時間でのトイレ誘導を行い、排泄パターンを理解することでパットの使用が少なくなった。食後毎回トイレに行く癖の理解が出来るとポータブル利用も自分で出来るようになった。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排便状況を把握し、散歩、体操を勧めたり、水分摂取を促している。また、下剤の内服での調整も行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・できるだけ希望に合わせて入浴していただいている。時間帯はほぼ決まっているが、希望時には随時行っている。また、最低週2回は入っていただくようにしているが、ほぼ毎日の人、4～5日に1回の人もある。	週に2回の入浴は最低でも行っている。拒否のある利用者は、タイミングを見て入浴していただく。畑に行ってきたから汗をかいたから入るなどの人もいる。入浴をしたがるときは便で汚れているなどのサインもあり、その都度入浴していただくこともある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・入居前の生活習慣に合わせる支援や、声を掛けないと休まない方には、間での休息を促したり、夜眠れない方には日中の活動を促したりと、一人ひとりに応じて支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の内容について個々のファイルにあり、職員各自理解に努めているが、作用等詳しく理解していない職員もいる。 ・薬が変わった時は、担当者より詳しい申し送りがある。		

外部評価結果(おらがの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・生活歴を活かし、役割を担っていただいている。 ・希望献立、ドライブ等取り入れている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日は、希望に沿って戸外への外出、散歩の付き添いをしている(買物、お花見等)。 ・希望している自宅への外出は、家族に協力を求めているが、かなう人もいればそうでない人もいる。	調査時にも、利用者同士手をつないで散歩に出かける姿が見られた。利用者の希望により暖かいときは散歩に出かける。買い物に出かけるときも利用者が希望すれば一緒に出かける。年間の事業計画にも家族と共にバラ園などに出かけるなど写真も飾ってあり楽しみの時間を過ごしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・個人管理が難しい面があり、預り金から希望の品を購入している。 ・本人の気持ちに配慮し、家族と話し合い、財布にお金を入れている人がいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望があれば電話をつなぎ、支援している。 ・年賀状を出している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・写真や花、利用者の作った作品を飾っている。 ・長座布団を畳スペースに敷いておいたり、冬はコタツを作って工夫している。	むき出しの丸柱が優しい雰囲気をかもし出している。食堂の横にはこたつがあり、ゆっくり利用者と過ごす時間がある。外出時に撮った写真や絵手紙や文字を書くのが好きな利用者の童謡も貼られている。トイレ前にはベンチが置いてあり、個別に職員と話ができるスペースがあり居心地よい空間がある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・廊下の一角に腰掛ける場所を作ったり、窓側スペース、畳スペース等自由に使えるスペースがあり、活用している人がいる。		

外部評価結果(おらがの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・テレビを持ち込む人、冷蔵庫を持ち込む人、ベッドは使わずジュータンに布団を敷いて生活する人、昔を思い出して欲しいと昔の写真がたくさん貼ってある人等、馴染みのものを持ち込んで居心地よく過ごせるようにしている。	昔の良き日の思い出がつまった写真を家族がボードに掲示し、何時でも見れるように部屋に飾ってある。自分の唯一安心できる部屋として、居心地良く過ごせる工夫をがなされていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ベッドの位置や向き、ベッド柵、ポータブルトイレのタイプや位置をその人に合わせて設置している。 ・食堂の席、椅子のタイプをその人に合った物で用意している。 ・洗濯物干し場を居室に設けている。		